

令和7年度第2回静岡県てんかん治療医療連携協議会 議事概要

1 開催概要

日時：令和8年3月13日（金） 午後6時から7時30分まで

場所：オンライン開催（Zoom）

2 議題

令和7年度静岡県てんかん地域診療連携体制整備事業の実施報告について

3 実施報告（要点）

- ・静岡県てんかん・神経医療センターは、1975年設立で昨年50周年。てんかん病床146床、医師25～30名（専門医約20名）、看護師約100名、ビデオ脳波計約25台等の設備を保有し、診断・薬物療法・リハビリ・相談等の包括的医療を提供している。
- ・診療実績としては、初診数は例年並みで男女差はほぼ拮抗、年齢層は小児から若年成人が多いが、高齢発症例も一定数ある。居住地は県外が約5割だが県内受診実数は増加傾向。初診の約3割以上はてんかん以外と判定され、約37%を紹介元に逆紹介、約40%が検査中心の入院となっている。
- ・生活支援の事例としては、職業適性評価や薬剤調整、ソーシャルワーク等の多職種連携により30代女性が正社員保育士として復職した実績など、診療と並行した生活支援の効果が示された。
- ・地域連携としては、「てんかん診療パス」を作成・運用し23医療機関が登録、静岡市医師会の連携システムに組み込むなど逆紹介の仕組みを整備中。病診連携の認定は全国32件（県内16件）。
- ・教育・啓発では、てんかん専門職研修を継続しWeb（オンデマンド）配信の活用で受講者が拡大している。出前講座は特別支援学校中心に実技を含めて実施している。
- ・相談窓口では電話・メール・面談の順で相談があり件数はやや減少（拠点病院増加が要因）。相談者は家族（特に子ども関連）が最多で、内容は治療・発作対応・就労・運転・妊娠等。相談員による支援や制度利用促進、多職種連携による継続支援が必要。

4 意見交換（要旨）

- ・啓発の対象拡大：てんかんの正しい知識の一般市民への浸透が不足。企業イベント・EXPO等やライトアップ等の実施タイミングの工夫、YouTube等での公開を提案。県民だよりや回覧版のような、日常的に目に入りやすいものでの周知も大切。
- ・地域医療支援：常勤医不足地域へのオンライン診療が導入されると良い。
- ・偏見対策・事例共有：てんかんへの偏見を減らすため成功事例や事業所での対応例の周知を強化することが有効。
- ・指針・周知物の必要性：学校医や現場の受け入れ差を踏まえ、統一的な指針があると良い。

5 まとめ（今後の課題）

- ・正確な診断機能（特に初診）の充実と逆紹介を含む医療連携の更なる推進。
- ・診療と並行した生活支援（就労支援等）と多職種連携の継続。
- ・診療パス・登録医療機関等の浸透と専門職研修の継続的な拡充（対面＋Web）。
- ・てんかんの家族等だけでなく、一般の方に対する周知を深めるための企業・イベントでの啓発強化、学校現場向け指針作成・実技研修の推進。
- ・相談体制の充実と地域医療（遠隔診療含む）情報の共有による継続支援体制整備。